

世界の著名な特許にみる ————— 第7回

世紀の発明事業列伝

〈その思いつきが、時代を動かす〉

エジソンの創造性と発想力 その6

第一次世界大戦と海軍顧問就任・全米で話題！

エジソン奨学金試験の独特な問題・エジソン幻のSF小説



科学&知財クリエイター・弁理士（雅号）

大樹 七海

1. はじめに

前回までで、主要な事業については書き終えましたので、やや肩の荷が下りました。そこで、今号は、語り尽くせない、エジソンの創造性と発想力を感じさせるエピソード、いわゆる、こぼれ話（サイドストーリー）へと焦点を当てていきたいと思います。

実際、エジソンの人生史からいっても、60代の前回まで（62歳でアルカリ乾電池完成、67歳で研究所火事）の後は、よりエジソンらしさが際立ってくる生き方を貫いていきます。

というのも、既に生ける伝説と化していたエジソンは、第一次世界大戦の開始に際しては国家の危機を救う存在として期待を背負い、これまでの人生経験から、人間社会と科学技術の関わりについて見通しを立て、続いてその思考は地球規模の未来の危機への対策に拡がり、果ては死後の世界の解明に着手す

る…というように、その活動領域をさらに拡張していくのです（今号と次号の2回に分けて執筆予定）。

2. エジソンのこぼれ話

1914年に第一次大戦が始まると、表面上は中立を保っていたアメリカにも犠牲や危機が生じ始め、1917年に参戦することになります。そこでエジソンの発明の才を、祖国の勝利に活かして欲しい、という声上がり、エジソンは海軍諮問委員会の議長に就任します。第一次世界大戦は、歴史上、初の国家総力戦と言われ、科学技術と工業力の差が戦力に直結し、被害も甚大となり、これまでの戦争の概念を一変させてしまう出来事でした。この変革に差し掛かる時期において、エジソンの科学技術と戦争観が伺えます。

続いて、前回お伝えしたアルカリ蓄電池の完成により、エジソンは多額の収益を上げる

ことに成功します。そこで、貧しさから科学技術の才により身を立てアメリカの未来を担っていく若者たちに関心を向け、1909年（62歳）にエジソン奨学金を設立しました。この際に、その奨学生選抜試験で出された問題は独創的で物議を醸し、かのアインシュタインをも巻き込み、全米の新聞に取り上げられ、大いにお茶の間を賑わす話題となりました。その試験とはいかなるものだったのでしょうか。

そして、選抜試験といえば、エジソンの会社には、全米から優秀な学生が殺到するようになっており、筆記試験が用いられるようになりました。その採用における問題の作り方にも、エジソンがどういう人を優秀だと考えていたのかを読み取ることが出来ます。今風に言えば、「地頭の良さ」を見つけ出そうとするものでしょう。一時期ブームだった頃のMBA採用試験やGoogle採用試験での独創的な出題で、トップクラスの頭脳を採用するために考えられた判別方法の源流にあると言えるでしょう。

そして、最後の余談として、エジソンとSF作品について紹介します。エジソンが大の読書家であることは書きましたが、SF小説も好んで読んでいました。特にジュール・ベルヌ（生誕1828-死没1905、著作「海底二万里」、「十五少年漂流記」等）はお気に入りでした。また、既に世界的に著名なエジソンは、「メンローパークの魔法使い」、「発明王」、「蓄音機の父」、「映画の父」、「訴訟王」、「発明界のナポレオン」等と数々の異名を持ち、伝説的な人物としてのイメージすら漂わせていました。そのため、エジソンに許可を取ったり、取らなかったり、と色々ありますが、エジソンをモチーフとした多数のSF小説が生まれていき、世の中を沸かせました。そのような中、エジソン本人も技術の先読みで未来社会を想像していましたから、それを基にSF小説を作ろう、という企画が持ち上がりました。どんな内容を考えてのでしょうか。

さて、エジソンの創造性と発想力を知るより深いサイドストーリーへと参りましょう。

3. エジソンと第一次世界大戦

(1) 第一次世界大戦について

1914年、エジソン67歳ですが、通称「サラエボ事件」により、第一次世界大戦が始まります。極めて簡単に言うなれば、セルビアのサラエボで、セルビア王国のテロリストがオーストリア・ハンガリー帝国の王位継承者を暗殺したことで、それまで抑え込まれていたヨーロッパ列強国同士のメンツをかけた戦いが始まり、事件から数日間でヨーロッパ大戦へと広がり、更にそれが世界大戦へと拡大してしまう結果になりました。セルビア側を支援したロシアを受けて、オーストリアの同盟国であるドイツはロシアに宣戦布告、それを受けてロシアと同盟国で普仏戦争の復讐心滾るフランスはドイツに宣戦布告、続いて中立を目指していたイギリスもドイツを警戒して宣戦布告、そのためイギリスと同盟関係にあった日本もドイツに宣戦布告、ドイツ側にはオスマン帝国、ブルガリアが参戦、最後に中立を保っていたアメリカがドイツの野望を警戒し、ついにドイツに宣戦布告しました。この連合国（ロシア、フランス、イギリス、日本、アメリカ等）と同盟国（ドイツ、オーストリア・ハンガリー等）で争われた4年間に渡る泥沼の戦争により、疲弊したドイツ国内では暴動によりドイツ革命が引き起こされ、皇帝ヴィルヘルム2世が亡命した結果、第一次世界大戦は主にドイツに敗戦国の多大な責務が課されて、終結しました。同戦争前後で革命等により、ドイツ帝国、ロシア帝国、オーストリア＝ハンガリー帝国、オスマン帝国等の帝国が消滅しました。

(2) アメリカの参戦について

アメリカは、それまでのモンロー主義（1823年に発表された米国の孤立的な外交政策で、ヨーロッパ諸国の戦争への不干渉）に